

岡山県高梁市 農家さん



Farmer's
Takahashi City, Okayama Prefecture
encyclopedia

鑑 2025

『作る人がいるから、美味しいが続く』

協力頂いた農家さん
20件



岡山県高梁市農家さん図鑑2026

発行・取材 | 伊藤 結菜 (シャルム地域おこし協力隊)

令和8年1月発行

岡山県高梁市 農家さん



Farmer's
Takahashi City, Okayama Prefecture
encyclopedia

鑑 2026



OKAYAMA TAKAHASHI
Charme
KIBI INTERNATIONAL UNIVERSITY

伊藤 結菜 (いとう ゆな) プロフィール

令和6年4月から、岡山県高梁市でシャルム地域おこし協力隊として活動しています。
女子サッカーチームの吉備国際大学Charme岡山高梁(なでしこリーグ2部)で活躍中♪
高梁市で活躍する農家さんをご紹介します！

note・Instagramのフォローをお願いします♪

note・Instagram



プロフィール



名前

伊藤 結菜 (いとう ゆな)

誕生日

2004.10.26 (21歳)

出身地

群馬県

座右の銘

明日やろうは馬鹿野郎

特技

三点倒立

趣味

掃除・愛犬と遊ぶ

活動内容

高梁市地域おこし協力隊として、農業の魅力発信や農家さんの取材・発信を行っています。
また、吉備国際大学シャルム岡山高梁に所属し、サッカー選手としても活動をしています。

コメント

農家さんから教えていただいたリアルな声を農家さん図鑑を通してお届けします！

目次



①石橋 千賀良さん

②上藤 亨・裕子さん

③梅津 直幸さん

④江草 真一さん

⑤佐久間 秀治さん

⑥清水 四郎さん

⑦新倉 淳さん

⑧鶴宗 晴幸さん

⑨仁科 浩美さん

⑩平井 和樹さん

⑪平松 俊子さん

⑫深本 文雄さん

⑬藤井 純也さん

⑭布施 晋さん

⑮松川 裕子さん

⑯松村 信一郎さん

⑰三宅 勇輝さん

⑱森岡 託緒さん

⑲森田 伸一さん

中曽 まゆみさん

⑳矢尾 知恵・拓人さん

石橋千賀良さん

出身：東京都



● 高梁市有漢町上有漢

— 作目名 —

- ・ 120種類以上
季節ごとのあらゆる野菜50a



農業を始めたきっかけ

中学生の時に自給自足をしたいと思っていて、水とか食べ物はなんとかかなると思ってたんですけど、エネルギーや電気はコンピュータを動かす時に使うから自給したいと思って、理系の高校に進んでバイオマスを知って、バイオマスがあったら何かできそうと思い、大学でバイオマスの勉強をしたんです。でも、「なんか違うな」「これは個人でやることじゃない」と。やっぱり自給自足できるのは農業だと思い、最初は千葉県で始めました。

農業のいいところ

最も簡単に人を喜ばせられると思います。

あと、仕事でお金を稼いで、そのお金で野菜を買いに行くというその一手間が省ける場所ですね。

楽しさ・やりがい

「美味しい」や「ありがとう」と喜んでもらった時は間違いなくやりがいを感じます。

私の野菜を食べて、野菜の変化や季節の移ろいなどを感じ、その感動を共有できた瞬間はかなり嬉しいです。

失敗や苦勞

農協にまとめて出荷するのではなく、飲食店を中心に直接出荷しています。お客さんごとに内容をコーディネートし、ニンジン一つでも小さいもの、大きいもの、葉付きなど、シェフの好みに合わせて作っています。

ただ、そのための情報収集には苦勞しました。

東京では同じような農家が多く情報も豊富でしたが、岡山では農協出荷が主流で、クリエイティブな栽培や販売の情報が入りにくかったからです。

こだわり・アピールポイント

例えばカブの旬は11月から2月初めまで。見た目は冬でも、土の中では春の準備が始まっています。

甘くてジューシーな品種ですが栽培は難しく、100粒まいて育つのは約60粒。それでも「おいしさ」で勝負しています。

2月に入ると菜の花の芽が出て、カブの甘みは少しずつ落ちていきます。

それでも私は、その“最後のカブ”もあえて届けます。

野菜を通して、季節の移ろいや変化を感じてほしい。

「味が変わってきたね、春だね」と笑ってもらえる体験こそが、私の農園の届けたい感動です。



アドバイス!!

本当の意味で“自由”に生きて、結果採れる物で遊んで暮らしてください！



ホームページ



スカウト7

上藤亨・裕子さん

出身：京都府



高梁市有漢町有漢

一作目名

・白桃20a 6種

清水白桃 夢白桃 川中島白桃 白鳳 冬桃がたり



ココちゃんのベビーカステラ

【告知】

完全予約制：0866-57-2615

土、日、祝 12:00~17:00

ベビーカステラ	フレーバーいろいろ
・プレーン	・いちご
カップ ¥400円	・バナナ
袋 ¥500円 (15個入)	・オレンジ
¥1000円 (30個入)	・抹茶
¥1500円 (45個入)	・マンゴー
	・パイナップル
	・キャラメル
カップ ¥500円 (13個入り)	
袋 ¥1,500円 (40個入り)	



農業を始めたきっかけ

もともと、主人の父がやっていて、帰ってきた時にはよく手伝いに来てたので、その関係もあって、有漢に帰ってきて始めました。その時は父の木はもう古いからと言って全部抜いて植え替えて私たちは今年7年目くらいになります。木は全部で21本あります。一度に全部実がなったら大変だから、順番に実がなるように品種を考えながらやっています。

農業のいいところ

工夫次第でいろんなことができるでしょう。お勤めしてるわけじゃないから、自分の意思で自分の工夫次第でいろんなことができると思います。

楽しさ・やりがい

お客さんに「美味しかったです」と言われると、「ああやってよかった」と嬉しい気持ちになります。それが一番。あとはまあ思うようにできたとか。自分が思うようにこれぐらいの大きさでこれぐらいできたっていう時は、主人と話し合って、これはいいねと。

失敗や苦労

農業は天候に大きく左右されます。急に実が悪くなり、落ちてしまうこともあります。それは自分ではどうにもできません。暑すぎてもダメ、雨も必要な時に降ってほしい。野菜も桃も同じです。今年は、芽が動き始める春先に霜が2回ほど降りました。その影響でめしべが傷み、清水白桃は千〜二千個ほど落ちてしまいました。本当に大きな損失でした。

こだわり・アピールポイント

出荷する時には一個一個糖度計で測って出します。それも1箇所じゃなくて何箇所も置いて調べたりしています。それが私たちのこだわりです。



アドバイス!!

農業は自由な仕事で、挑戦しようと思えば何でも形にできます。失敗もありますが、最初に「これで食べていけるか」を考えて準備すれば、若い人でも十分にできます。若い世代の新しい視点は、これからの農業にとっても大切です。「やってみよう」と思う人が増えてくれたら嬉しいし、ぜひ挑戦してほしいです。

梅津直幸さん

出身：福岡県



● 高梁市有漢町有漢

ー 作目名 ー

- ・ピオーネ、シャインマスカット、オーロラブラック、瀬戸ジャイアンツ、クイーンニーナ 50a



農業を始めたきっかけ

前職の仕事に「人生このままでいいのか？」と疑問を感じるようになり、漠然とやってみたいと思っていた農業に挑戦したいと思うようになりました。その中でも、専業として成り立つ果物で就農できないか検討しました。いろいろと情報を集める中で、岡山県のブドウは生計を立てやすいという指標があることを知り、「ここで挑戦してみよう」と思い、岡山に移住して2年間の研修を経て晴れてブドウ農家となりました。

農業のいいところ

一番の魅力は、自分でやりたいように仕事ができることです。責任も判断もすべて自分次第で、働き方も自分で決められます。また、季節の変化を感じながら働けることも、農業ならではの魅力だと感じています。

楽しさ・やりがい

いいものができて、「美味しい」と言ってもらえることが何よりのやりがいです。ブドウ栽培でいうと、枝や房が理路整然と同じように綺麗に並んでいるのを見るのに快感を感じます。また、僕は数字を扱うのが好きなので、色々なデータを数値化して相関を取ったり、どのような成果になったかを考えることも楽しみの一つです。

失敗や苦勞

「失敗」から学べることがあれば、それは失敗ではないと思っています。思い通りにいかないこともあります。次につなげるために何ができるかを常に考えています。ブドウ作りは大変なことも含めて楽しく、農業そのものに強い苦勞は感じていません。ただ、身体的には無理をしすぎないよう気をつけながら、日々の積み重ねや変化を楽しんでいます。

こだわり・アピールポイント

一番のこだわりは、とにかく丁寧にやることです。土づくりでは、落ち葉や茅を入れるなど、ブドウに良いと思うことは色々試しています。ブドウは、何か一つで急に美味しくなるものではなく、すべての積み重ねだと思います。大切なのは、適期に、やるべき作業をきちんとやること。人の都合ではなく、ぶどうの気持ちになって向き合うことが、美味しさにつながると感じています。



アドバイス!!

本当に農業をやりたいなら、始めるのは早い方がいいと思います。体力も必要ですし、資材の価格も年々上がっています。ただし、すべての責任は自分に返ってくる。その覚悟は大切です。一方で、セカンドライフとして自分のペースで関われるのも農業の魅力です。とにかく、農業は楽しい仕事です。

江草真一さん

出身：高梁市



高梁市備中町平川

— 作目名 —

- ・黒毛和牛（備中牛）380頭
（肥育牛230頭 繁殖牛100頭 育成牛50頭）



農業を始めたきっかけ

父と叔父さんが2人でこの広さでやっていて大変だと思うし、後継いでも生活していけるんじゃないかなと思ったので引き継ぎました。

今は父と母と叔父さんと4人でやっています。

家畜農家のいいところ

一次産業で、人の体の元となる物を作っているということです。それは誇りに思ってます。

楽しさ・やりがい

やった分だけ牛も応えてくれるので、育てた牛からいいお肉が出たらやりがいを感じます。

失敗や苦勞

全部やらなければいけないことなので、大変だと思わずに取り組んでいます。そのため、特別に「これが一番大変」というものはあまりありません。強いて言えば、基本的な管理を行いながら、牛の体調を見続けることです。毎日エサをあげていると、体調の悪い牛がいれば、ちょっとした変化にも気づき、目で見て分かるようになります。また、エサやりはサボることができないため、台風や大雨のときのエサやりは大変です。

挑戦・やってみたいこと

高梁市のイベントで備中牛をPRできる特産品を作れたらいいかなと思っています。

あと、耕作放棄地が増えているのでそこで放牧したいです。



アドバイス!!

一から始めるのは難しいけど、牧場をするにもエサ屋さんがいたり、牧草を海外から輸入する業者さんがいたり、薬屋さんとか、いろんな業者の人が関わってるから、しっかり勉強して、畜産の業界に入ってきてくれたらと思います。

佐久間秀治さん

出身：高梁市



高梁市備中町平川

— 作目名 —

- ・ピオーネ39a、シャインマスカット40a、
瀬戸ジャイアンツ9a 計88a



農業を始めたきっかけ

父が病気になったことをきっかけに、農業と本格的に向き合う決意をしました。それまでは会社員として働きながら、土日だけ田畑を守る兼業農家でしたが、その形には限界を感じていました。

「この土地を守るには専業でやるしかない」——そう覚悟し、長男として家を継ぐ道を選びました。もともとトマト農家でしたが、土地を有効活用するためブドウ栽培を始め、今ではすべての畑をブドウに転換しています。

農業のいいところ

個人農家の魅力は、やった分だけ結果が返ってくることです。誰かに使われることはなく気は楽ですが、その分、責任はすべて自分にあります。会社のように常に助け合える環境とは違い、農業は基本的に自分で判断し、自分で動く仕事です。そこが大きな違いだと感じています。

楽しさ・やりがい

やっぱり出荷の最初の頃が楽しいです。最初の時期のブドウは病気も出ず、粒がピチピチと張りがあって、本当に元気なブドウができるんです。一年間の管理の成果がそのまま形になって現れる瞬間なのでやりがいを感じます。

失敗や苦勞

最初は母と2人で60aからのスタートでしたが、作業が追いつかず収穫物の品質が落ちてしまったり、思うように良いものが作れなかったりと苦勞の連続でした。その時期は必死で、1週間ほど畑に泊まり込み、夜はヘッドライトをつけて作業を続けていました。あの頃が、これまでで一番大変だった時期です。

こだわり・アピールポイント

ブドウ作りで一番意識しているのは、しっかり甘く仕上げることです。そのために水を抑え、実は大きくならなくても甘さを引き出します。ただ、やりすぎると木が弱るため、常に細かく調整しながら育てています。



アドバイス!!

自分で農業を始めると決めたなら、最後までやり抜く覚悟が必要だと思います。

それは厳しさではなく、その人自身を守るためです。農業は機械や土地など多くの責任を最初から背負う仕事です。だからこそ、中途半端ではなく、覚悟を持って始めてほしいと思います。

清水四郎さん

出身：神奈川県



● 高梁市有漢町有漢

— 作目名 —

・シャインマスカット2.5a



農業を始めたきっかけ

横浜では農業を全くしてなくて、郵便事業をやっていました。定年後、10年前に高梁市に来たんですけど、あえて何もしない生活を送るためにここに来ました。そしたらブドウが目について、一年目からシャインマスカットを始めました。最初はピオーネスクールで教わって、それから単独・共同でやっています。

農業のいいところ

自分で育ててできた物を食べられることが嬉しいですね。

楽しさ・やりがい

収穫の時期は特に楽しいですね。

生産者は最高です。

自分で作ったものを販売することはもっと楽しいです。

失敗や苦勞

年中失敗だらけです。

教えてもらったことがなかなかできなくて失敗が多いです。

いいブドウを作りたいんですけどなかなか難しくて。

何年やっても難しいですね。だからこそ収穫の時期には最高の喜びを得ることができますね。

人手不足で困ったこと

困ったことはないです！

周りの農家さんと共同でブドウの農作業をやることによって、困った時に教えてもらったり助けてもらってます。



アドバイス!!

高梁市の有漢町はいいところですから、ぜひ移住してください！

新倉 淳さん

出身：高梁市



高梁市備中町布賀

— 作目名 —

- ・桃太郎みなみ1500本 約1反
- ・さつまいも 30a
- ・お米 2反5畝



農業を始めたきっかけ

私は次男で、本来は兄が家を継ぐものだと思っていましたが、兄に確認すると「やらない」と言われ、誰かが土地を守らなければならないと感じて農業を継ぐ決断をしました。私で17代目になります。

もともとは葉タバコ農家でしたが、タバコをやめてトマト栽培に切り替えてから約10年になります。当初はブドウと迷いましたが、実際に作業を体験し、自分にはトマトの方が向いていること、そして生活に欠かせない野菜であることから、トマト栽培を選びました。

楽しさ・やりがい

自分でスケジュールを立てられるというのが、農業の良いところだと思います。自分の思うように動けますし、いろいろと実験的な取り組みもできます。そこが農業の魅力ですね。

こだわり・アピールポイント

トマトは食品なので、農薬の基準や安全管理には十分に気をつけています。

一方、芋は無農薬で栽培しています。

…ただ、芋づくりのこだわりについては“秘密”です！

失敗や苦勞

「失敗はない」と言いたいところですが、最初はトマトが全然わかりませんでした。

簡単に作れると思っていましたが、実際は準備も管理も想像以上に変で、肥料も足りているつもりが全然足りていなかったり、液肥の調整を何度もやり直しました。

やはり経験のある人に見てもらわないと分からないことが多く、何年も続けてようやく加減が掴めてきました。

今では普及センターに行って、素直に指導を受けています（笑）。

人手不足について

もう少し条件の良い圃場があればと思います。

作物によって必要な環境は違いますが、圃場の良し悪しで作業の労力は大きく変わります。

農地が集約されていれば効率化できますが、農家が減り荒廃農地が増える中で、新たに圃場を整備するのは簡単ではありません。



アドバイス!!

どんなことを始めるにしても、まずは資金が必要です。それに、安易な気持ちで来て、途中で辞めてしまう人もいますよね。だからこそ、しっかりとした覚悟が大事だと思います。

鶴宗晴幸さん

出身：高梁市



高梁市有漢町有漢

— 作目名 —

・お茶、野菜全般2反、お米2反



農業を始めたきっかけ

おじいちゃん、おばあちゃん、両親がずっと兼業でお米や野菜を作っていて、子どもの頃から自然と手伝うのが当たり前の環境で、気がつけば自分もその流れを引き継いでいました。

でも、本当に農業をやろうと決めたのは、「自分の力でおいしい野菜を作りたい」と思ったときです。家の手伝いではなく、自分の意志で挑戦してみたいと思ったのが一番の大きなきっかけです。

農業のいいところ

とにかく農業は楽しいです。

自分で育てたものを、自分で食べられるというのが一番の魅力だと思います。採れたての野菜を“新鮮なうちに美味しく食べられる”という贅沢は、農業をしているからこそ味わえる特別な楽しさです。

楽しさ・やりがい

農作業は楽しく、野菜を食べた人の「おいしい」が何よりの励みです。食べたい野菜を聞いて育て、喜んでもらえることにやりがいを感じています。儲けよりも、楽しみながら続けられることが一番の魅力です。

失敗や苦勞

農業は失敗の連続で、天候にも大きく左右されます。今年は猿にトウモロコシを200本食べられました。それでも、その失敗さえ楽しんでいます。

「来年はどうしよう？」と考えるきっかけになり、うまくいかなかったことを次にどう変えるか考える時間も面白い。

失敗は、次の挑戦につながる大切なヒントだと思っています。

こだわり・アピールポイント

化学肥料や農薬はできるだけ使わず、自然に近い形で育てることを大切にしています。

安心して食べてもらえる野菜を作るのが、私のこだわりです。

育てた野菜や畑の様子はSNSで発信し、野菜の魅力と一緒に地域の良さも伝えています。

自分の農業スタイルを知ってもらえるのが嬉しいです。



アドバイス!!

農業は大変なこともあります。まずは楽しみながらやるのが大切だと思います。自分なりの楽しみを見つけられれば、無理なく続けられます。兼業で取り組めば気持ちにも余裕ができ、趣味として農業を楽しむこともできます。ハードルを上げすぎず、できる範囲で楽しみましょう。

仁科浩美さん

出身：高梁市



高梁市松原町松岡

ー 作目名 ー

・夏野菜、ナス、ピーマン、玉ねぎ、苗、いちご6a



農業を始めたきっかけ

最初は自分たちで食べるだけのつもりで家庭菜園を始めました。でも、作るのがとても楽しくて、もう少し多めに作ろうかなと思うようになったり、やまびこ市場に登録して少しずつ出荷を始めたら、だんだんと作る量も増えていきました。近所の方に玉ねぎの苗をあげたら「またちょうだい」といわれ、それに応えるうちに、気づけばたくさんの玉ねぎの苗を作るようになっていました。

農業のいいところ

自分で食べ物を作ることで、どうやって育てられたかが見える安心感があります。農業についても、きちんと基準を守って使えば問題ないと検証されていますので、安全な食べ物を自信をもって届けることができます。

楽しさ・やりがい

「今年もいい苗だったよ！」と言われたいがために作っていて、そんなふうに声をかけてもらえると、本当に嬉しくて、ホッとした気持ちになります。また、買ってくれた人や食べてくれた人に「美味しいね」「いいね」と言ってもらえることが、何よりのやりがいです。

失敗や苦勞

畑が草だらけになったり、病気で野菜をダメにしてしまったりと、作物に無理をさせたと感じることもあります。雨の多い年には病気が広がり、苗を作れず、楽しみにしてくれていた人に謝ったこともありました。また、温暖化の影響で季節のリズムが崩れ、自然環境の変化にも悩まされています。

こだわり・アピールポイント

「いらない」と思われているものでも、農業に役立てられないか常に考えています。たとえば、おからや籾殻を堆肥として活用。籾殻は分解に時間がかかると言われますが、土をやわらかくし、水はけをよくし、地温も下げてくれる役割があります。しかも、燃やすと二酸化炭素が発生してしまうので、畑で利用することで環境にも優しい農業を目指しています。



アドバイス!!

今ある食べ物が、未来も当たり前にあるとは限りません。
特に田んぼは一度荒れると戻すのが難しく、守り続ける人が必要です。

農業は作るだけでなく、売ることも大切。これからの農業には、続けられる仕組みづくりが欠かせません。



ホームページ

平井和樹さん

出身：倉敷市



● 高梁市有漢町有漢

— 作目名 —

・イチゴ10a、ブドウ12a



農業を始めたきっかけ

高校の頃から農家になりたいなとは思っていて、おばちゃんが野菜作りが好きな人でそのお手伝いをしてました。その時作るのって楽しいなって思って、そこから大学も農学部にいきました。仕事も農業関係の仕事をしていました。でも、いつかは仕事を辞めて農家になりたいと思っていたので、仕事を始めて10年目くらいからそろそろ農業始めようかなと思って、家族の説得とか上司の説得とかしてたら予定よりのびて15年ほどサラリーマンをやっ
て、辞めて農家になりました。

農業のいいところ

会社に比べたら自分次第で、時間に自由が効くというのがいいです。1人で大変と思ったら規模を小さくできるし、もっと作りたいと思ったら規模を増やせるし、自分の自由でできるので良いです。

楽しさ・やりがい

美味しいものができて、自分が食べても美味しかったり、家族が食べても美味しいと言ってもらえたり、買いに来た人が喜んでくれたり、それが一番やりがいです。最近はバイトの人からもここへ来るのが楽しいと言ってもらえたりとか、カフェとかにも出しているんですけどその人たちにも喜んでもらえるというのがいいですね。

失敗や苦勞

最初はハウスを立てるのが本当に大変でした。
イチゴの定植に間に合わせるため、3か月ほど朝から晩まで作業を続け、
腱鞘炎にもなりました。
また、農薬をできるだけ使いたくなくて抑えすぎた結果、イチゴやブドウ
が病気になることもありました。
最近は首や腰に負担が出ることもあるので、無理をしすぎないように意識
しています。

こだわり・アピールポイント

イチゴは毎日朝採りし、その日にハウスやポリカ内のふるさと市場で販
売しています。
採れたてをすぐ食べられるのが一番の魅力です。
また、ブドウは11種類栽培しており、品種の多さも強みです。



アドバイス!!



Instagram

できれば自分で耕作放棄地を開拓して棚をたててゼロ
から始めるというくらい意欲のある人が今後來てく
れたら、というかそういった人じゃないと難しいか
な。若い人とかやる気のある人が来てくれると嬉しい
です！

平松俊子さん

出身：京都府



高梁市松原町神原

— 作目名 —

- ・ピオーネ、シャインマスカット、瀬戸ジャイアンツ、オーロラブラックなど、希少品種含む数種 約60a
- ・原木椎茸、菊芋、ウコン、ジャンボニンニク



農業を始めたきっかけ

義父がタバコ作りからブドウ作りに切り替える時にお手伝いができればいいなと思いピオーネスクールに通ったのがきっかけで、楽しそうにする私を見て、翌年には夫もスクールに通い、夫婦でブドウ作りにハマり自分たちでの栽培が始まりました。

農業のいいところ

早朝仕事を始めた時に小鳥のさえずりを聞きながら雄大な自然の中、開放感があり気持ちがいいです。
とにかくストレスが少なくて良いです。

楽しさ・やりがい

病気が少なく形のいいブドウができた時や、お客様が喜んでくれる姿を見た時です。

失敗や苦勞

当初、農薬防除が十分できておらず、ブドウに病気が多くて収穫量が少なくなっていました。

こだわり・アピールポイント

とにかく味！粒の大きさ！ピオーネの黒！
冬は山へ芝刈りに行き、落ち葉を山ほど集めてブドウ畑に敷き詰めます。一年かけて畑で粉々になり、それを毎年繰り返すことでより良い腐葉土が作られるのです。他園とは違う味が味わえます。
標高が450mあり雲海が毎日見える畑での栽培のため、寒暖差がありピオーネが黒く美味しくなります。



アドバイス!!

とにかく機械にお金がかかります。少しずつ買い揃えていますが、ある程度計画的にスタートすることをお勧めします。

農業は対人ストレスが少ない仕事ですが、一方で自分との戦いです！やりがいがありますよ！



Instagram

深本文雄さん

出身：高梁市



高梁市松原町松岡

— 作目名 —

・ピオーネ、シャインマスカット30a



農業を始めたきっかけ

いつかやろうと思っていて、35歳の時に親のブドウ畑を引き継いでスタートしました。

農業のいいところ

農業は個人プレー。自分の考えで自由にできるところが魅力です。工夫次第で、自分だけのスタイルを作れるところが面白いです。

楽しさ・やりがい

一番やりがいを感じるのは、やっぱり収穫の瞬間です。自分の手で育てたものが形になり、食べた人に「おいしい」と言われると嬉しいです。

失敗や苦勞

失敗はたくさんあります。自然相手なもので、教科書通りには行かないので大変ですね。頭ではわかってるんですけどね。何でこう上手く行かないんだろうと。まあそれも経験ですね。ブドウは作業が一時期に集中するのでそれが大変ですね。

こだわり・アピールポイント

こだわりは土づくりです。カヤや堆肥など地域の材料を集め、十分に成熟させてから冬の間に木の周りへ埋めています。発酵が進んだ堆肥を使うことで、微生物の働きが活発になり、効率よく養分が吸収されます。土はふかふかになり、根がしっかり伸びていきます。一気に効くのではなく、じわじわと効き、春には力強い芽が出てきます。



アドバイス!!

これからの農業にはチャンスがいっぱいです。
ぜひ飛び込んでほしいです。

藤井純也さん

出身：高梁市



高梁市川上町仁賀

ー 作目名 ー

・ピオーネ、シャインマスカット、長野パープル、安芸ク
イーン、ゴルビー、クイーンニーナ 計60a



農業を始めたきっかけ

祖父が僕の生まれた頃からブドウを作っていて、物心ついたときにはもう畑が身近にありました。祖父も90歳くらいになっていたので、「このまま途絶えさせるのはもったいないな」と思い、後を継ぐことにしました。

農業のいいところ

自分のペースで黙々とできるのでストレスが少ないです。
忙しい時は忙しいけど、ゆっくりな時はゆっくりできるので良いです。

楽しさ・やりがい

太陽の下で黙々と作業し、汗をかく時間がとても気持ちよく楽しいです。
それと、お客さんの「おいしい」という言葉が、大きなやりがいになっています。毎日変化があり、花が咲いたり実が大きくなったりと発見が尽きませんし、同じ作業の繰り返しではないところも魅力です。
また、農業機械に触ったり修理したりするのも楽しみの一つです。

失敗や苦勞

失敗は毎年あります。
気候や受精の状態など条件が毎年違い、同じことをしても結果は変わります。去年と同じ管理でも、色づきが悪くなることもあります。
また動物被害も多く、今年はアナグマやハクビシンに約60房、去年はカラスにもやられました。
対策をしても完全には防げず、難しさを感じています。

こだわり・アピールポイント

堆肥は自分で作り、落ち葉を集めて発酵させた腐葉土を使っています。
畑には若い木と古い木がありますが、収量よりも味を大切にしています。
特に長く生きた木のブドウは、コクがあり美味しいです。



アドバイス!!

農業をするにしても結局1人ではできないですからね。
人との繋がりは大切だと思います。

あと、思ったより大変なので覚悟が必要だと思います。



ホームページ Instagram

布施晋さん

出身：宮城県



● 高梁市有漢町上有漢

ー 作目名 ー

- ・ピオーネ、シャインマスカット、ゴールドフィンガー、安芸クイーン、クイーンニーナ 計20a
- ・お米1反5畝



農業を始めたきっかけ

農業を始める前は太陽光パネルの仕事をしていてあちこち行った時に、コロナが流行っている時期だったので日本は食料危機になるだろうと感じ、食料を作った方がいいなと思ったので静岡とか千葉とか色々見に行きました。有漢に住んでいた友達に、高梁にくる？と言われたので来てみました。そしたら「ブドウもやってみませんか？」と言われたので、まあやってみようかな、という感じで始めてみたところ現在に至ります。

農業のいいところ

人に雇われていないことです。
自分の食料を自分で作っていただけるというところと、自由に生きていられると感じるところですね。

楽しさ・やりがい

ブドウの収穫が終わった時が「あー今年も終わった」となって嬉しいです。もう、始まる前は憂鬱です。ビニール張って芽かきくらいから大変です。

失敗や苦勞

失敗と苦勞だけです。
間引きが難しかったですね。間引く部分が多かったり少なかったりすると失敗するんですよ。
今はもう慣れてきたので大丈夫です。
あと1人で2反の栽培は作業が大変です。

こだわり・アピールポイント

ジベレリンの作業を朝と夕方にするんだけど、面積が広くて大変なので、こだわりより作業を早く終わらせることが大事なんです
よ僕は（笑）



アドバイス!!

とりあえずやってみたらいいと思いますよ。
どういう風に失敗するかですかね。

ちゃんと人から教わって最初からうまく行く人もいる
かもしれないけど、失敗した時、そこからどうするか
が面白いんでね。

失敗しても大丈夫です。

松川裕子さん

出身：高梁市



● 高梁市川上町七地

— 作目名 —

- ・ピオーネ、シャインマスカット、オーロラブラック 計50a
- ・お米8反 虹のきらめき、きぬむすめ



農業を始めたきっかけ

もともと後を継いだ家が農家で、このあたりは60年ほど前からブドウの産地でした。昔は養鶏もしていたのですが、鶏舎が古くなったこともあってやめてしまい、その後はキャベツや白菜、きゅうりなどを栽培していました。そうした中で、ブドウが一番収入が安定していて将来性もあると思い、本格的にブドウを始めました。

農業のいいところ

農業は定年がなく、体が動く限り続けられるのが魅力です。思うようにできなくなっても、その時に合った関わり方があります。定年後に始める人や、学びや社会経験を経て入る人など、農業の関わり方は本当にさまざまです。

楽しさ・やりがい

出荷のときに良いものができていると嬉しく、「糖度がのって美味しい」と言ってもらえると大きな励みになります。喜んで食べてもらえることが、何よりのやりがいです。ブドウは手をかけただけ応えてくれる作物で、丁寧に向き合うほど、確かに良いものになります。

失敗や苦勞

もともとは兼業農家で、家族と野菜作りをしていました。義父の他界と品種転換が重なり、植えては切るという大変な時期を経験しました。当時は学ぶ場もなく、分からないことだらけの手探り状態でした。思うようにいかない日が続き、悩みながらの栽培でした。それでも他の農家さんや農協、普及所の方に助けられ、試行錯誤を重ねて30年以上ブドウ作りを続けています。

こだわり・アピールポイント

普及所の先生や農協の指導員さんに来ていただいたり、防除カレンダーに沿って作業をしています。それに加えて、「ブドウの気持ちになって」接するように心がけています。



アドバイス!!

作物を好きになってください。
仲間を作って、仲間と切磋琢磨して欲しいし、
自然が相手なので大変ですけど、工夫と努力次第でや
っていけると思います。

松村信一郎さん

出身：大阪府



● 高梁市成羽町布寄

ー 作目名 ー

- ・ピオーネ、シャインマスカット
オーロラブラック、安芸クイーン 計70a



農業を始めたきっかけ

私たちはもともと大阪で暮らしていて、結婚する前から「田舎で暮らしたいね」とよく話していました。結婚してからは4年半ほど大阪で生活しながらお金を貯めて、移住の1年くらい前から少しずつ調べ始めました。田舎に行くなら農業がしたいと思い、どんな作物なら生活できるのか調べたところ、岡山ではブドウかトマトがいいと知りました。高梁市を選んだのは、偶然大阪で参加した高梁市のPRイベントがきっかけです。そのイベントで初めて高梁市を知り、ブドウ農家の方と出会いました。そこで見たブドウに惹かれ、「自分たちもブドウを作りたい」と思いました。

農業のいいところ

農繁期と農閑期がはっきり分かれているから、忙しい時は本当に忙しいけど、農閑期が来たら自分の趣味のこともできるし、メリハリがあるからいいかなと思います。
あと、地味な作業の積み重ねですけど、それが好きな人は向いてると思います。

楽しさ・やりがい

自分で一から作るという、作業的にはしんどいけど、できた時の喜び・提供した時の喜びが返ってくるので、達成感があってやりがいです。

失敗や苦勞

最初は苦勞しましたね。それでも楽しめました。
最初の1年間は収入はそんなになかったんで、今思えばすごい生活してましたね。

こだわり・アピールポイント

この産地では、みなさんが本当に良いものを作られているので、負けないように努力しています。「よそから来たからこの程度か」と思われないうちに、日々工夫しながら研究を重ねています。



アドバイス!!

とにかく、コツコツと。

結果がついてくる職業だと思います。

こういう田舎はポツンと寂しいので、人付き合いも広げた方がいいです。

三宅勇輝さん

出身：高梁市



● 高梁市備中町布賀

— 作目名 —

- ・ホルスタイン搾乳牛200頭、後継牛70頭
黒毛和種40頭、交雑種160頭



農業を始めたきっかけ

祖父母の代から始まり、僕で3代目です。
小学生の頃からずっと少年野球をしていて、中学・高校を決めるときも、本当は甲子園を目指せる学校で硬式野球をやりたいと思っていました。でも、中学生の頃から牛の世話を手伝っていたこともあり、将来は自分がしないといけないなと考えて、農業高校の畜産科へ進学しました。そこには軟式野球部しかありませんでしたが、「野球ができるなら硬式か軟式か言ってもらえない」と思い、軟式野球を続けながら畜産について学びました。

家畜農家のいいところ

この頃畜産の業界が悪い状態で厳しいんですよ。でもみんな前向きで、情報共有が多い業界で、結構みんな隠さないんですよ。「牛一頭売するのにどこに出したほうが良いよ」とかの情報共有もするし、元気のある人が多いです！

楽しさ・やりがい

三宅ファームを法人化してから、保育園児の来園や小学生の取材、中学生の職場体験など、農業を発信する機会が増えました。
学校へ出向いて、仕事の話をする講座も行っています。
農業や畜産、田舎の魅力を伝えながら、育てた牛肉や牛乳を味わってもらって、子どもたちの素直な「おいしい」という声や、保護者の「ありがとう」の言葉が、何よりのやりがいです。
動物と触れ合う子どもたちの笑顔にも、いつも励まされています。

失敗や苦勞

牛は言葉で不調を伝えられないため、朝牛舎に行くとすでに命を落としていることもあり、自分の目配りの足りなさを痛感します。
今はコンピュータ管理や各種機器で状態を把握していますが、それでも大切なのは異変にいち早く気づき、治療につなげること。
牛の体調管理は、常に気の抜けない大変な仕事です。

こだわり・アピールポイント

うちの牛舎は、最先端技術を取り入れているのが特徴です。
牛が自分で入るロボット搾乳機があり、洗浄から搾乳、消毒まで全自動。搾乳後には特別なエサがもらえるので、牛も自分から進んで入っていきます。人がいなくても搾乳できる点が、大きなこだわりであり強みです。



ホームページ

畜産は土地や設備が必要で、初期投資も大きく、正直始めるハードルは高い仕事です。牛を導入してもすぐ収入にはならず、その間も毎日の餌代がかかります。リスクは大きいですが、人の生活に欠かせない仕事でもあります。
だからこそ、本気でやりたい強い覚悟がある人には挑戦してほしい。相談があれば、喜んで力になります。

森岡託緒さん

(森岡農園)

出身：高梁市



高梁市有漢町有漢

— 作目名 —

- ・ピオーネ8000房、シャインマスカット2000房、
瀬戸ジャイアンツ2000房

【森岡農園の告知】

💰 試食・入園料無料

📞 必ず3日前までに電話予約 (090-7890-6006)

🍇 ブドウは一房700円



農業を始めたきっかけ

親が農業をしていたのですが、早くに亡くなったので、僕が急遽実家に戻り、後を継ぐことになりました。

農業のいいところ

頑張った分だけ結果が出るところです。

楽しさ・やりがい

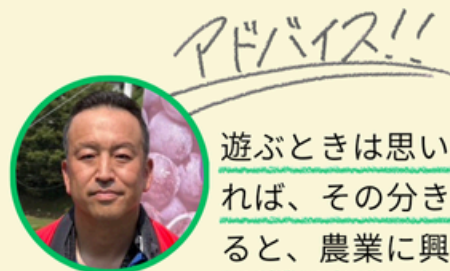
やっぱり一番のやりがいは、お客さんがブドウ狩りに来て「大きいな」「美味しいな」と言ってくださることです。

失敗や苦勞

特に大きな問題はなく、順調にやれています。
ただ、大変なのは、一つの作業に対して一人や二人ではできず、大勢で力を合わせないといけないところですね。そんな時は兄や友人に手伝ってもらいながら頑張っています。

こだわり・アピールポイント

森岡農園では朝採りしたものをそのまま食べていただけるので、新鮮さが大きなアピールポイントになっています。



遊ぶときは思いきり遊べるし、やるときはしっかりやれば、その分きちんと結果が返ってきます。そう考えると、農業に興味を持ってもらえるんじゃないでしょうか。



Instagram



ホームページ

宇治雑穀研究会

(森田仲一さん・中曾まゆみさん)

出身
森田さん 高梁市
中曾さん 三重県



高梁市宇治町宇治

一 作目名 一

・もち麦（キラリモチ）200a



農業を始めたきっかけ

昔は、家の周りに畑があり、野菜や麦、大豆を育てるのが当たり前でした。しかし今は高齢化が進み、畑を続けられなくなっています。それでもおじいちゃんやおばあちゃんたちは、「家の前だけは荒らしたくない」と、汗をかきながら必死に守ってきました。ところが、イノシシが出て畑を荒らすようになり、何も植えなければ遊び場になってしまう。「それなら何かやろう」と集まり、綿やそばなどの雑穀を植えるところから活動が始まりました。集落が荒れると、人の元気もなくなります。困っている方の耕作放棄地を使い、作物を育て、「うちの畑でもこんなに採れた」と喜んでもらいたい。その想いで続けています。

農業のいいところ

自然相手なところ。人に頼らなくても自分でできるし、やったものが目に見える。

楽しさ・やりがい

宇治町ではいろんなイベントを企画してくれるんだけど、パッとみたら大抵雑穀研究会のメンバーが宇治町全体の中心になっていて、それだけまともがいいのがやりがいを感じます。

失敗や苦勞

大きな失敗はしていませんが、高齢化で日々の作業が年々大変になっています。農作物は毎日の管理が必要ですが、家のこともあり、声をかけても人が集まらないこともあります。それも苦勞の一つです。もち麦も、収穫から加工、PRまで多くの工程があります。こうした一連の作業は、年齢を重ねるほど負担が大きくなってきます。

こだわり・アピールポイント

地域おこしの一環です。地域を守るために私らができる間は頑張ろうということです。



アドバイス!!

水や空気がきれいな環境で育てた食べ物は、本当に安心して食べられるものだと思います。量や価格を重視する農業も大切ですが、「本当の意味での食」を意識して作ることも、また大事な価値です。そんな思いを持って農業に向き合ってもらえたら嬉しいです。

矢尾知恵・拓人さん 出身：瀬戸内市



高梁市備中町平川

— 作目名 —

・桃太郎みなみ26a

農業を始めたきっかけ

もともと2人とも農業に興味があり、高校は農業高校に通っていました。ただ畜産科だったため、野菜づくりの経験はありませんでした。卒業後は専門学校を経て、それぞれ動物関係の仕事に就きながら、「いつか自分たちで農業ができればいいね」と話していました。そんな時、平川に住む夫の友人から「農地が空いているから見に来ない？」と声をかけてもらったのがきっかけです。軽い気持ちで見に行ったのですが、地域の方が集まってくださり、住宅も農地もすぐ使える状態で残っていると勧められました。住宅と農地が同時に空くことは滅多にないので、「これは巡ってきたチャンスだ」と感じ、農業を始める決断をしました。



農業のいいところ

自然の中で作物の成長を感じながら、自分たちのペースで仕事ができることが大きな魅力です。忙しい時期と落ち着く時期のメリハリがあり、やった分だけ結果として返ってきますし、花が咲いたり実が育ったりする日々の変化が楽しく、作業の励みになります。夫婦で役割分担しながら支え合い、自分たちに合った農業の形を楽しんでいます。

楽しさ・やりがい

収穫の時がいちばん楽しく、特に最初の収穫前にトマトが揃って実っていると本当に嬉しくなります。また、前半の「木づくり」は、その後の生育や収量に大きく影響する大切な時期です。先の姿を想像しながら作業するのは難しいですが、思いどおりに育ったときの喜びは格別です。

失敗や苦勞

栽培2年目で大きな失敗はありませんが、経験が浅く、初めて見る病気に迷うことはあります。そんな時は農協や普及センター、師匠の與田さんに相談し、すぐ助言をもらっています。おかげで早めに対処でき、今のところ順調に進めています。作業は夫婦で役割分担し、高い所は夫、低い所は私が担当。お互いに苦手を補い合いながら続けています。

こだわり・アピールポイント

まだ自分たちの“こだわり”を語れるほど作りこなせてはいないんですけど、正直なところ、30代という若さと元気さが今の一番の強みかなと思っています。エネルギーにしっかり動いて作業できるところが、私たちの“うり”ですね。



Instagram

アドバイス!!

農業は一人で抱え込まず、困ったときは周りに相談し、助け合いながら進めてほしいと思います。

農家同士はライバルでもあり、同時に仲間。お互い支え合うことが大切です。「やりたい」という気持ちがあれば、きっと周囲は応援してくれます。

まずは勇気を出して、一歩踏み出してみてくださいね。